

簿記・会計

(全問必答)

第1問 次の問い(A・B)に答えよ。〔解答記号 ~ 〕(配点 40)

A 次の文章は、個人企業である山形商店(決算は年1回、決算日は12月31日)の先輩Aさんと、後輩Zさんとの会話である。これを読み、6ページから8ページの問い(問1~5)に答えよ。ただし、商品売買取引は3分法で処理している。なお、金額の単位はすべて千円である。また、()は各自で考えること。

Aさん：当店は伝票を使って取引を記録しています。伝票に記入することを起票といいましたね。伝票制には、すべての取引を 伝票に記入する1伝票制や、5種類の伝票を使う5伝票制もありますが、当店は3伝票制を採用しています。これが実際の伝票です。

Zさん：はじめて実際の伝票を触りましたが、ずいぶん薄い紙ですね。破ってしまいそうで不安です。

Aさん：確かにそうですね。丁寧に扱って慣れていきましょう。それでは、証ひょうにもとづいて今日の取引を記録していきます。得意先の秋田商店に掛けて商品を売り渡した際の納品書の控えと、それにもとづいて起票した伝票は、 のようになります。

秋田商店との取引についての納品書(控)と起票した伝票(略式)

納品書(控)		振替伝票(借方)	振替伝票(貸方)
秋田商店 御中	¥200	<input type="text" value="イ"/> 200	() 200
ボールペン 40本 (@¥5)			

Zさん：振替伝票には借方も貸方もあって、仕訳の形式と一緒にしたね。

Aさん：そうですね。だから、起票する際も、(i) 取引要素の結合関係を考えることが重要です。さて、岩手商店の売掛金を回収する際に同店振り出しの小切手を受け取りましたが、この取引はどの伝票に起票すればいいか、覚えていますか。

Zさん： **カ** 伝票だと思います。

Aさん：そのとおりです。それでは、もう少し複雑な取引も見てください。次の取引では、福島商店から商品¥100を仕入れて、代金の一部¥80を現金で支払い、残額は掛けにしています。仕訳だと貸方の勘定科目は二つになりますが、伝票1枚につき、借方と貸方のそれぞれの科目が1科目になるように起票してください。

Zさん： **資料2** のように起票したのですが、これであっていますか。

資料2 福島商店との取引をZさんが起票した伝票(略式)

<u>出 金 伝 票</u>	<u>振替伝票(借方)</u>	<u>振替伝票(貸方)</u>
仕 入 80	仕 入 20	買 掛 金 20

Aさん：確かに、これでも各勘定の残高は正しい記録になります。ただ、その方法だと福島商店からの仕入高が分割して記録されるので、当店は **資料3** のようにいったん全額を掛け取引として起票する方法を採用しています。この方法だと **キ** から仕入先ごとの仕入高を確認できて便利です。

資料3 福島商店との取引をAさんが起票した伝票(略式)

<u>() 伝 票</u>	<u>振替伝票(借方)</u>	<u>振替伝票(貸方)</u>
ク 80	() 100	() 100

Zさん：なるほど、よくわかりました。それにしても仕入れや売り上げの取引が多くなると、記入事項も増えて大変そうです。

Aさん：そうですね。だから5伝票制を採用している企業もあります。(ii) 5伝票制を採用すると3伝票制の場合とは起票する伝票の種類が変わることがあるので、注意が必要です。

Zさん：わかりました。…今日の取引の起票がすべて終わりました。

Aさん：それでは、今日起票した伝票をまとめて各勘定科目の金額を集計した仕訳集計表を作成しましょう。

資料4 ×5年3月1日における仕訳集計表

仕 訳 集 計 表				
×5年3月1日				
借 方	元 丁	勘 定 科 目	元 丁	貸 方
700	(省 略)	現 金	(省 略)	800
740		売 掛 金		320
⋮		⋮		⋮

(注) 「⋮」によって、記入は一部省略してある。

Zさん：できました。…あれ？ 資料4 の現金勘定ですが、資産の勘定なのに借方の金額よりも貸方の金額が大きくなってしまっています。これでいいのでしょうか。

Aさん：問題がないことを総勘定元帳に転記して確認してみましようか。総勘定元帳によると、昨日の現金勘定の借方残高が¥760なので、今日の現金勘定の借方残高は¥シス0になりますね。また、補助簿への記入は、複写式の伝票を使うと、写しで作業が同時にできて便利です。

Zさん：伝票って薄い紙に工夫が詰まっていて、すごいですね。

問1 会話文における ア・イ, カ, ク に入る最も適当なものを、次の解答群のうちから一つずつ選べ。

ア・イ, カ, ク の解答群					
①	入	金	④	出	金
②	当座預金		⑤	売掛金	
③	売	上	⑥	仕	入
⑦	転	記	⑧	現	金
⑧			⑨	買	掛
				仕	訳

問 2 会話文における下線部(i)に関して、次の(1)~(3)の取引要素の結合関係に該当する取引として最も適当なものを、後の解答群のうちから一つずつ選べ。

ウ ~ オ

<u>借方の要素</u>	———	<u>貸方の要素</u>	
(1) 費用の発生	———	資産の減少	ウ
(2) 負債の減少	———	資産の減少	エ
(3) 資産の増加	———	資本の増加	オ

ウ ~ オ の解答群

- ① 給料 ¥ 100 を現金で支払った。
- ② 備品 ¥ 300 を購入し、代金は月末に支払うことにした。
- ③ 現金 ¥ 500 を元入れして、開業した。
- ④ 商品売買の仲介を行い、手数料 ¥ 3 を現金で受け取った。
- ⑤ 仕入先に対する買掛金 ¥ 12 を現金で支払った。
- ⑥ かねて掛けて売り上げた商品 ¥ 40 が、品違いのため返品された。
- ⑦ 商品 ¥ 22 を掛けて仕入れた。

問 3 会話文における キ に入る最も適当なものを、次の解答群のうちから一つ選べ。

キ の解答群

- | | |
|---------|---------|
| ① 売掛金元帳 | ① 買掛金元帳 |
| ② 現金出納帳 | ③ 売上帳 |

問 4 会話文における下線部(ii)に関して、5 伝票制(商品売買取引はいったん全額を掛け取引として処理する。)によれば、次の取引は、以下のように起票される。に入る最も適当なものを、後の解答群のうちから一つ選べ。また、・に当てはまる数字を、解答用紙の解答欄にマークせよ。

取引：宮城商店に商品を¥ 110 で売り渡し、代金のうち¥ 70 は同店振り出しの約束手形で受け取り、残額は現金で受け取った。

<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center; padding: 2px;"><input type="text" value="ケ"/></td> <td style="padding: 2px;">伝票</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">宮城商店</td> <td style="text-align: right; padding: 2px;">110</td> </tr> </table>	<input type="text" value="ケ"/>	伝票	宮城商店	110	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center; padding: 2px;">()</td> <td style="padding: 2px;">伝票</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">売掛金</td> <td style="text-align: right; padding: 2px;">()</td> </tr> </table>	()	伝票	売掛金	()
<input type="text" value="ケ"/>	伝票								
宮城商店	110								
()	伝票								
売掛金	()								

<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center; padding: 2px;">振替伝票(借方)</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">受取手形 <input type="text" value="コ"/> <input type="text" value="サ"/></td> </tr> </table>	振替伝票(借方)	受取手形 <input type="text" value="コ"/> <input type="text" value="サ"/>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center; padding: 2px;">振替伝票(貸方)</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">売掛金 ()</td> </tr> </table>	振替伝票(貸方)	売掛金 ()
振替伝票(借方)					
受取手形 <input type="text" value="コ"/> <input type="text" value="サ"/>					
振替伝票(貸方)					
売掛金 ()					

	<input type="text" value="ケ"/> の解答群	
①	入金	①
②	仕入	②
		③
		④
		⑤

問 5 会話文における ・ に当てはまる数字を、解答用紙の解答欄にマークせよ。

- (4) 6月28日、株主総会で繰越利益剰余金を次のとおり配当および処分することを決議した。なお、株主総会当日の資本金は¥16,000、資本準備金は¥2,600、利益準備金は¥1,300であった。

配当金 ¥1,500
 利益準備金 会社法令に規定する額
 別途積立金 ¥ 950

(借) () () (貸)

ト

 1,500
 利益準備金

ナ	二
---	---

0
 別途積立金 950

- (5) 9月30日、(1)で発行した社債Aについて、第1回の利息を小切手を振り出して支払った。

(借) () () (貸) 当座預金

又

- (6) 3月31日、決算にあたり、当期純損失¥540を計上した。

(借)

ネ

 540 (貸) () 540

資料2

 ×6年度中の取引(一部)

11月1日、新たに株式150株を1株につき¥6で発行し、その全額の引き受け・払い込みを受け、払込金は当座預金とした。ただし、払込金額のうち、1株につき¥2は資本金として計上しないことにした。

問 1 資料 1 の セ ～ タ , ツ , ナ ～ 又 に当てはまる数字を, 解答用紙の解答欄にマークせよ。

問 2 資料 1 の チ , テ ・ ト , ネ に入る最も適切な勘定科目を, 次の解答群のうちから一つずつ選べ。

チ , テ の解答群

① 未払法人税等	④ 社債発行費	⑦ 租 税 公 課
② 仮払法人税等	⑤ 社 債	⑧ 支払手数料
③ 社債利息	⑥ 株式交付費	

ト , ネ の解答群

① 当座預金	④ 現 金	⑦ 未払配当金
② 資本金	⑤ 繰越利益剰余金	⑧ 損 益

問 3 資料 2 の取引を勘定に記入すると になる。 に入る最も適当なものを、次の解答群のうちから一つ選べ。なお、解答群では、この取引に関係のない記入と当座預金勘定は省略してある。

の解答群

①

資 本 金	
	11/1 当座預金 900

②

資 本 金	
	11/1 当座預金 900

③

資 本 金	資 本 準 備 金
11/1 当座預金 450	11/1 当座預金 450

④

資 本 金	資 本 準 備 金
11/1 当座預金 600	11/1 当座預金 300

⑤

資 本 金	資 本 準 備 金
11/1 当座預金 300	11/1 当座預金 600

第2問 鹿児島商事株式会社(決算は年1回、決算日は3月31日)は、複合仕訳帳制度を採用しており、普通仕訳帳のほかに当座預金出納帳、仕入帳、売上帳を特殊仕訳帳として使用している。特殊仕訳帳から総勘定元帳への合計転記は、普通仕訳帳をとおさず、毎月末に行っている。ただし、補助簿として商品有高帳、売掛金元帳、買掛金元帳、小口現金出納帳を用いている。なお、鹿児島商事株式会社は、A商品のみ売買を行っており、払出単価の決定は移動平均法による。

次の「資料1」～「資料6」にもとづいて、17ページの問い(問1～5)に答えよ。ただし、金額の単位はすべて万円である。なお、()は各自で考えること。

〔解答記号 **ア** ～ **ハ** 〕(配点 30)

資料1 ×5年4月中の仕入れに関連するすべての取引

14日：宮崎商店からA商品¥240(20個、@¥12)を仕入れ、代金は掛けとした。

15日：宮崎商店から14日に仕入れたA商品のうち10個が品質不良であったため、返品した。

17日：大分商店からA商品¥**アイウ**(25個、@¥())を仕入れ、小切手を振り出して支払った。

資料2 ×5年4月中の商品有高帳

(移動平均法)		商品有高帳								
		品名 A商品			単位：個					
×5年	摘要	受入			払出			残高		
		数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額
4	1 前月繰越	30	6	180				30	6	180
	4 鳥取商店				()	()	120	()	()	()
	14 宮崎商店	20	12	240				()	()	300
	15 宮崎商店返品				10	()	()	()	エ	()
	16 島根商店				15	()	()	()	()	()
	17 大分商店	25	15	()				30	14	420
	18 島根商店				()	()	280	10	14	140
	30 次月繰越				10	14	140			
		75		795	75		795			

(注) 太字は赤字記入を意味する。

資料 3

× 5 年 4 月中の当座預金出納帳と売上帳

当座預金出納帳

× 5 年	勘定科目	摘 要	元 丁	売掛金	諸 口	× 5 年	勘定科目	摘 要	元 丁	買掛金	諸 口
4	1	売掛金	島根商店	売 1	700	4	2	買掛金	宮崎商店	()	()
	5	売掛金	鳥取商店	売 2	30		10	買掛金	沖繩商店	買 2	80
	16	()	島根商店	()			17	()	大分商店	()	()
							30	キ	4 月分	()	10
					730					()	()
	30		売掛金	4			30		買掛金	11	380
	"		当座預金	()			"		当座預金	ク	()
			前月繰越	✓					次月繰越	✓	クコ0
											1,265

売 上 帳

× 5 年	勘定科目	摘 要	元 丁	売掛金	諸 口
4	()	() 商店	()	()	()
		A 商品 20 個 @ ¥ 10			
	16	当座預金	サ		()
		() 商店			
		A 商品 () 個 @ ¥ 12			
	18	売掛金		売 1	()
		島根商店			
		A 商品 シ ス 個 @ ¥ 20			
	()	売掛金		売 1	10
		島根商店			
		A 商品 2 個 @ ¥ 5			
					セ ソ 0 ()
	30		4		()
	"		35		()
	"		タ		()
					770

(注) 太字は赤字記入を意味する。

資料 4

× 5 年 4 月中の小口現金出納帳

小口現金出納帳

受け入れ	× 5 年	摘 要	支払い	内 訳				残 高
				交通費	通信費	消耗品費	雑 費	
()	4	1	前月繰越					30
			合 計	10	2	3	4	1
10		30	小切手					
		"	次月繰越	30				
()				40				

(注) ~~~~~によって、取引の記入は一部省略してある。また、太字は赤字記入を意味する。

資料5 ×5年4月中の総勘定元帳(一部)

総勘定元帳

小口現金		1	当座預金		2		
4/1 前期繰越	30	4/30 子 ()	4/1 前期繰越	355	4/30 当座預金出納帳	765	
30 当座預金出納帳 ()			30 当座預金出納帳 ()				
売掛金		4	買掛金		11		
4/1 前期繰越	980	4/30 当座預金出納帳	730	4/30 当座預金出納帳 ()	4/1 前期繰越	10	
30 () ()		" 売上帳	10	" 仕入帳	120	4/1 前期繰越	10
				30 仕入帳	240		
売上		35	仕入		44		
4/30 売上帳 ()		4/30 売上帳 ()		4/30 仕入帳	615	4/30 仕入帳	120

資料6 ×5年4月中の売掛金元帳・買掛金元帳(すべて)

売掛金元帳

島根商店		1	
4/1 前月繰越	830	4/1 回収	700
18 売り上げ	400	19 値引き ()	
鳥取商店		2	
4/1 前月繰越	150	4/5 回収	30
4 売り上げ ()			

買掛金元帳

宮崎商店		1	
4/2 支払い	100	4/1 前月繰越	380
15 返品 ()		14 仕入れ	240
沖縄商店		2	
4/10 支払い	80	4/1 前月繰越	130

(注) 次月繰越は省略してある。

問 1 資料 1 の ア ~ ウ , 資料 2 の エ , 資料 3 の
オ ・ カ , ケ ・ コ , シ ~ ソ , 資料 5
の ツ ~ ナ , 資料 6 の ニ ・ ヌ に当てはまる数字
を, 解答用紙の解答欄にマークせよ。

問 2 資料 3 の キ に入る最も適切な勘定科目を, 次の解答群のうちから
一つ選べ。

キ の解答群

① 仕 入 ② 給 料 ③ 小口現金 ④ 売 上

問 3 資料 3 の ク , サ , タ に入る最も適切なものを, 次の
解答群のうちから一つずつ選べ。

ク , サ , タ の解答群

① ✓	② 1	③ 2
④ 4	⑤ 35	⑥ 売 1
⑦ 4 / 売 1	⑧ 4 / 売 2	⑨ 35 / 4

問 4 資料 5 の チ に入る最も適切なものを, 次の解答群のうちから一つ
選べ。

チ の解答群

① 仕 入 ② 次期繰越 ③ 諸 口
④ 当座預金出納帳

問 5 × 5 年 4 月末までの売上総利益は, ¥ ネ ノ ハ である。ネ ~
ハ に当てはまる数字を, 解答用紙の解答欄にマークせよ。

第3問 個人企業である東京商店(決算は年1回、決算日は12月31日)は、本店のほか、毎年12月の1か月間、商品の対面販売を専門に行う特設店を設けている。この特設店は、×5年12月31日において、本店の会計から独立しておらず、特設店で生じる取引はすべて本店に報告され、本店の帳簿に記録が行われる。

次の資料1～資料6にもとづいて、21ページから23ページの問い(問1～6)に答えよ。ただし、商品売買取引は3分法で記帳しており、資本の引き出しは引出金勘定で処理している。なお、金額の単位はすべて千円である。また、()は各自で考えること。〔解答記号 **ア**～**フ**〕(配点 30)

資料1 ×5年12月31日における決算整理前残高試算表

<u>残高試算表</u>			
×5年12月31日			
借方	元 丁	勘定科目	貸方
322	(現金	
1,280		当座預金	
800		売掛金	
		貸倒引当金	39
310	省	繰越商品	
6,000		建物	
		建物減価償却累計額	1,200
600		備品	
		備品減価償却累計額	120
6,220		土地	
		買掛金	348
		借入金	4,000
		資本金	9,500
490	略	引出金	
		売上	8,230
4,260		仕入	
2,700		給料	
330		支払家賃	
125)	水道光熱費	
23,437			23,437

資料2 修正事項(資料1には反映されていない。)

決算整理に先立ち、次の事項が判明したので、適切に処理する。

- (1) 特設店における×5年12月31日の売上¥30(同日に当座預金口座に入金されている。)について、特設店からの報告が遅れたため、未処理となっていた。
- (2) 決算日に売掛金元帳を確認したところ、得意先の埼玉商店に対する売掛金残高が¥80の貸方残高になっていた。この原因を調査したところ、同店に対する商品(納品日は×6年1月10日)の内金として、当座預金口座に¥80が入金された際に、次の仕訳を行うとともに、総勘定元帳と売掛金元帳の勘定口座に転記していたことが判明した。

(借) 当座預金 80 (貸) 売掛金 80

資料3 ×5年12月31日における決算整理事項等

- (1) 決算日における現金の実際有高を調査したところ、現金の実際有高が帳簿残高よりも¥6多いことが判明したが、その原因は不明であるため、適切に処理する。
- (2) 期末商品棚卸高は、¥370である。なお、特設店に商品の在庫はない。
- (3) 売掛金の期末残高に対して、5%の貸し倒れを見積もる。なお、貸倒引当金の設定は、差額を計上する方法(差額補充法)による。
- (4) 建物は、すべて×1年1月1日に取得したものである。定額法(残存価額はゼロ、耐用年数は20年)で減価償却を行う。
- (5) 備品は、すべて×4年1月1日に取得したものである。定率法(償却率0.20)で減価償却を行う。
- (6) 支払家賃は、すべて賃借しているDNCビル1階の賃借料(×5年12月から×6年2月の3か月分であり、この期間において月額賃借料に変更はない。)である。なお、この賃借物件は、×5年12月31日までは特設店として使用しているが、×6年1月1日以降は、支店として使用することになっている(支店については、後の資料6を参照)。
- (7) 借入金は、すべて×5年10月1日に、借入期間5年、利率年3%、利息は毎年9月末日に支払う条件で借り入れたものである。なお、利息の計算は月割りとする。
- (8) 引出金を整理する。

資料4 ×5年12月31日における損益勘定

損		益	
12/31 仕入 ()		12/31 売上 8, ア イ 0	
" 給料 2,700		" ウ	6
" 貸倒引当金繰入 エ			
" 減価償却費 オ カ キ			
" 支払家賃 ク ケ 0			
" 水道光熱費 125			
" 支払利息 ()			
" () 700			
	()		()

資料5 ×5年12月31日における繰越試算表

繰越試算表
×5年12月31日

借方	元丁	勘定科目	貸方
3 コ サ	(現金	
()		当座預金	
()		売掛金	
シ ス 0	省	貸倒引当金 ()	
()		繰越商品	
6,000		() 家賃	
		建物	
600		建物減価償却累計額 ()	
		備品	
6,220		備品減価償却累計額 ()	
	略	土地	
		買掛金 348	
		借入金 4,000	
		未払利息 セ ソ	
		タ 80	
	(資本金 9, チ ツ テ	
15,928			15,928

資料6 支店の開設と同支店における×6年1月中のすべての取引

東京商店は、DNCビル1階の特設店が好評であったため、この特設店を常設の支店とすることにした。支店における商品の対面販売の開始は、×6年2月1日を予定している。なお、支店の開設にあわせて、支店の会計を本店の会計から独立させることにした。

1月1日：支店を開設し、本店より次の項目を受け入れた。

現金¥150, 備品¥200, 備品減価償却累計額¥72

12日：郵便局で収入印紙¥10を購入し、代金は現金で支払った。

21日：本店から商品¥60が送付されてきたので、これを受け取った。ただし、本店は、商品を原価で支店に送付している。なお、この商品の本店における発送日は、×6年1月21日である。

31日：本店が立て替え払いしてきた支店の費用として、次の二つがある。これらの費用を支店で計上するように本店から指示を受けた。

DNCビル1階の賃借料(×6年1月から2月の2か月分)¥220

支店従業員の給料(×6年1月分)¥92

問1 資料4の ア・イ, エ～ケ, 資料5の コ～ソ, チ～テ に当てはまる数字を、解答用紙の解答欄にマークせよ。

問2 資料4の ウ, 資料5の タ に入る最も適当な勘定科目を、次の解答群のうちから一つずつ選べ。

ウ, タ の解答群

① 受取手数料	② 雑益	③ 雑損	④ 損益
⑤ 前受金	⑥ 預り金	⑦ 資本金	⑧ 前払金

問 3 支店において、資料 6 に示された×6年1月12日の取引を仕訳すると、次のとおりである。トに入る最も適当な勘定科目を、後の解答群のうちから一つ選べ。

支店：(借) ト 10 (貸) () 10

トの解答群

- | | |
|-----------|-----------|
| ① 通 信 費 | ④ 支払手数料 |
| ② 消 耗 品 費 | ③ 租 税 公 課 |

問 4 本店において、資料 6 に示された×6年1月21日の取引を仕訳すると、次のとおりである。ナに入る最も適当な勘定科目を、後の解答群のうちから一つ選べ。

本店：(借) () 60 (貸) ナ 60

ナの解答群

- | | |
|-------|-------|
| ① 本 店 | ④ 仕 入 |
| ② 売 上 | ③ 支 店 |

問 5 ×6年1月31日の取引を記帳した後における支店の次の勘定科目の残高を計算し、ニ～ヒに当てはまる数字を、解答用紙の解答欄にマークせよ。

現金勘定の残高 ￥ ニ ヌ ネ

本店勘定の残高 ￥ ノ ハ ヒ

問 6 支店の会計を本店の会計から独立させた場合に関する文として正しいものを、次の解答群のうちから一つ選べ。

の解答群

- ① 本店から支店に一定の利益を加算して送付した商品が期末に売れ残っている場合、本支店合併財務諸表を作成するうえで、支店の期末商品棚卸高に含まれる内部利益は控除される。
- ② 本支店合併貸借対照表には、決算日における支店勘定残高と本店勘定残高が記載される。
- ③ 支店の当期純損失を本店で計上する仕訳を行う場合、仕訳の借方の勘定科目は、支店になる。
- ④ 複数の支店があり、支店相互間の取引を本店集中計算制度で記帳する場合、各支店には、他の支店名をつけた勘定が設けられる。